

再評価【番号3】

**総合流域防災事業
二級河川苅屋川水系 苅屋川**

1. 河川の概要

苅屋川
流路延長 L=1.33km
(県管理区間)
流域面積 A=2.9km²



県道大林那賀川阿南線

※浸水範囲内および周辺の施設のみ記載

-  避難場所
-  社会福祉施設
-  医療施設
-  防災拠点施設

苅屋川

苅屋水門

国道 55号

県道橋

市道橋

平成16年台風23号
浸水面積：54ha
浸水戸数：2戸

 : H16台風23号 浸水区域



出水時の状況

H11.6月豪雨

H11.6月豪雨

阿南市
那賀川

2. 事業概要



3. 整備効果

【マニュアルによるB/C】

便益 (B)

- ・ 家屋、事業所等被害
- ・ 農作物被害
- ・ 公共土木施設被害
- ・ 営業停止被害
- ・ 応急対策費用 など

被害軽減期待額

→便益 B = **72.5億円**
(現在価値化後)

費用 (C)

- ・ 建設費
- ・ 維持管理費 (整備後50年間)

費用 C = **17.1億円**
(現在価値化後)

$$\frac{B}{C} = 4.2$$

【その他の整備効果】

貨幣価値に表れない整備効果

人的被害の軽減

- ① 浸水区域内人口の減少
- ② 浸水区域内災害時要援護者数の減少
- ③ 浸水区域内最大孤立者数の減少

医療・社会福祉施設等の機能低下による被害軽減

- ① 機能低下する社会福祉施設数

ライフライン停止による波及被害の軽減

- ① 電力の停止による影響人口
- ② 通信 (固定) の停止による影響人口

貨幣換算可能な整備効果

交通途絶による被害

経済被害の域内・外への波及被害

水害廃棄物の処分

※水害の被害指標分析の手引(H25試行版)平成25年7月
(国土交通省 水管理・国土保全局)による

5. 短期的な投資効果

【これまでの河川整備による投資効果】

事業着手時



現在の改修状況

(シミュレーションによる計算結果)

■ 解消した浸水面積

43ha [114ha ⇒ 71ha]

マニュアルによる被害額の軽減

■ 年平均被害軽減額

199百万円 [374百万円 ⇒ 175百万円]

人的被害の軽減(貨幣価値に表れない効果)

■ 浸水区域内人口の軽減

224人 [587人 ⇒ 363人]

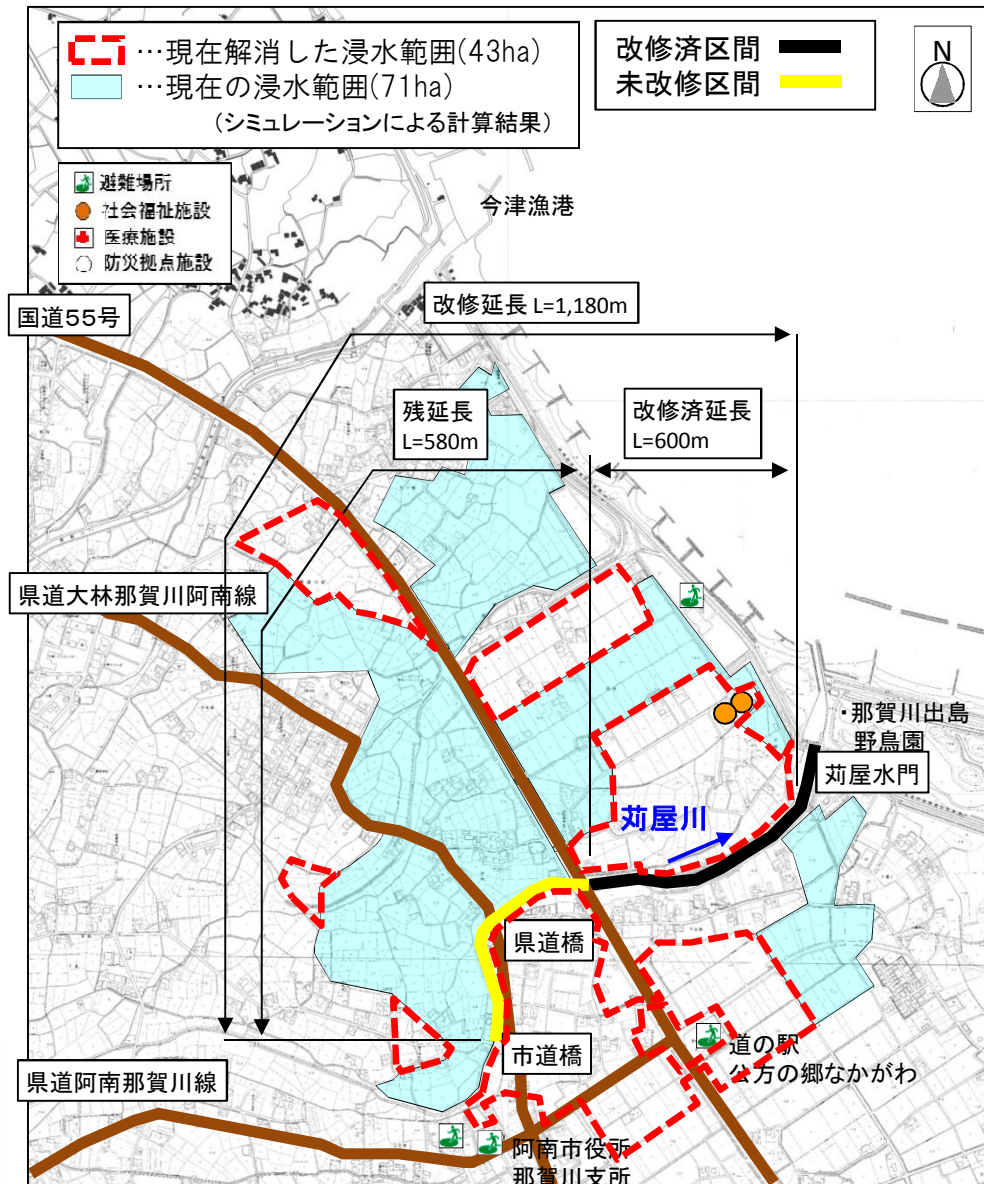
■ 浸水区域内の災害時要援護者数の軽減

109人 [259人 ⇒ 150人]

■ 最大孤立者数の軽減

102人 [133人 ⇒ 31人]

これまでの河川整備により
一定の浸水被害の軽減が期待

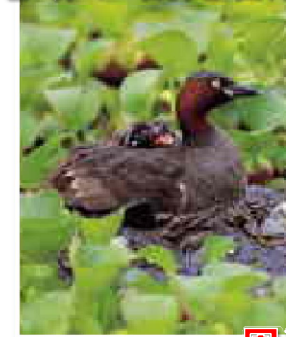


6. 河川整備によるストック効果

下流域に広がる「肥沃な農地」



地域の「観光名所」



周辺地域にも
波及・活性化！

観光バスが止まることも多く、
県外客からも大好評です。
店内は、観光客でいっぱいです。
(観光情報サイト 阿波ナビHPより)



「那賀川平野の
新鮮な農作物」



観光客も
立ち寄り
盛況！

地域特産品・魅力を発信
「地域振興の拠点」



産地直売！

苅屋川改修事業
の実施

- 農作物の生産性が向上
- 防災拠点や地域振興施設の機能が十分に発揮

地域が更に活性化
「地方創生」に寄与！